

<趣 旨>

日本 YMCA 同盟では、過去 17 回にわたってこのキャンプを主催してきました。

参加者は、インド南部の都市にあるインド SCM で過ごす中で急速な経済成長を続けるインドの歴史いや社会を学び、またインド最南端の農村にあるアンブマナイボーイズホームやセントボニファスアンバハムの子どもたちと生活を共にすることを通して、これまで想像したことのない「貧しさ」と「豊かさ」の現実を目の当たりにしました。それは今、私たちが飢餓と飽食が併存する世界に生きているという事実に対して、また私たち自身がその世界の一部なのだという、目を開かざるを得ない強烈な体験です。肌で感じることで芽生えた問題意識は、キャンパー個人のみならず、各地の学 Y や地域・全国の学 Y 活動・YMCA 活動に、直接的間接的に大きな刺激をもたらしています。

インドでは、WSCF（世界学生キリスト教連盟）に加盟しているインド SCM を訪れ、学生たちと交流する他、現地の YMCA やマザーテレサのブランチを訪問し、人々に仕える草の根の働きに触れます。

キャンプ期間中は「聖書を読む会」を行い、社会の現実と聖書のイエスの生き方に接する中で、自らの経験や生き方や問題提起を深め、互いに学び合います。それは、自由な応答の中で進められ、一人一人の言葉によって語られる貴重な時間です。

あなたも、アジアの人々との出会いを通し、育てられ、育ててゆく営みに触れ、自らの生き方を仲間と共に新たにしてくる活動に参加してみませんか？みなさんのご参加をお待ちしています。

<募集要項>

1. 目的

- ①アンブマナイボーイズホーム等での交流を通して、アジアの人々との出会いを体験し、アジアへの視点を育てる。
- ②インドの学生キリスト教運動（インド SCM）との交流を持ち、インドの社会状況について学びを深める。
- ③YMCA やマザーテレサの家など、草の根で活動する団体を訪ね、インド社会の現実と NGO の働きの大切さを学ぶ。
- ④帰国後、この体験を日本の学生 YMCA、都市 YMCA の青年と分かち合う。

2. 期間

2013年2月20日（水）～3月9日（土）

*1月26日（土）もしくは27日（日）に事前オリエンテーション（1泊）を行いません（要出席・東京）。また2月20日（水）と3月9日（土）は集合・解散日（東京）となります。なお、都合により日程が変更となる場合がございます。ご了承ください。

3. 滞在先

- アンブマナイボーイズホームおよびセントボニファスアンバハム（タミルナドゥ州カニヤクマリ）
- インド SCM ハウス（カルナータカ州バンガロール）

4. 募集・条件について

- ・募集人数：6名前後（ただしグループの構成上、書類選考を行います）

- ・YMCAの活動に関わる方。
- ・グループ行動ができる協調性があり、異文化社会での生活への順応性がある方。
- ・英語でのコミュニケーション（生活レベル）が可能な方。
- ・飛行機、バス等での長時間の移動、現地での活動に耐えられる体力のある方（不安のある方はご相談ください。）
- ・未成年者は保護者の同意が必要になります。
- ・予防接種が必要となります。

5. 参加費

210,000円

内訳：渡航費及び現地滞在費・事前研修費含む。

※ビザ取得費用・海外旅行傷害保険・予防接種代、国内移動費、また準備にかかる個人費用は含まれていません。また燃料費高騰のため21万円を超える可能性もあります。）

6. 申し込み方法・締切り

同封・添付の「第18回学生YMCAインドスタディキャンプ参加申込書」にご記入の上、

2012年12月26日（水）まで（必着）に

下記事務局までお送りください。

- ※ 国際情勢の影響で急遽渡航中止という可能性もありますことをご了承ください。

申し込み・問い合わせ先

日本YMCA同盟全国協力 学生YMCA
横山 由利亜・森 小百合

〒160-0003 東京都新宿区本塩町7

TEL：03-5367-6645 / FAX：03-5367-6641

e-mail：info@ymcajapan.org

日本YMCA同盟 HP：www.ymcajapan.org/

前回参加者感想より(抜粋)

◇子どもたちが大好きになった。ほとんど言葉が通じないのに、自分も子供たちも本当に純粋に何かを伝えようとしたからなんだと思う。

(田中翔也・中央大学 YMCA)

◇日本に帰ってきても頭の中にあるのはインドの社会問題、その改善に懸命に働いている人たち、旅の中で出会った子どもたちの笑顔。

(川上侑・東北大学 YMCA)

◇インドスタディキャンプを一言で表すと「未知との遭遇」だった。私にとって「インド」とは、今まで過ごしてきた日本と全く異なる世界だった。

(鏑木敦詞・立教大学 YMCA)

◇現地の大学生と SCM でインド社会の階級・ジェンダー・格差について学んだ時、日本の話にもなった。日本で暮らす自分が今まで無関心だった「日本社会の問題」をインドで考えさせられた。

(大川祈・広島大学 YMCA)

◇その日あったことや感じたことを共有するのが毎晩の聖書研究だった。聖書を読みながら、自分の過去や現在や未来のことに思いを馳せたり、生と死、この社会や差別のことを考えることもあった。

(久留島隆史・京都大学 YMCA)

◇自分は何も変わってないけど、インドスタディキャンプが自分の人生をスタートさせたといっても過言じゃないのかもしれない。

(竹中亨彰・熊本大学 YMCA)

前回引率スタッフから呼びかけ

海外旅行が珍しくない今日では、インドに行くことは実に簡単なことだ。観光ツアーでも一人旅でも、パスポートとお金さえあれば誰だって行ける。そんな時代に、わざわざこのインドスタディキャンプおススメするには理由がある。

それは子どもたちとの出会い。彼/彼女らがその小さな手で「幸せ」とは、「誰かを愛すること」とは、「希望」とは何かを教えてくれる。子どもたちと思いつ切り触れ合い遊ぶ中で、私たちは今までの価値観をひょいっと飛び越えて、豊かな想像力とともに新しい視点と出会うことができる。

そして、その子どもたちの現在と未来のために働く、インドで生きる人々との出会い。差別や貧困や暴力や抑圧に抗う人々の生きざまは、私たちに他者のために生きるとは何かを教えてくれる。

さいごに、この旅を共に過ごす仲間との出会い。18日の間、寝食を共にし、共に出会い共に学び共に語り合う。笑ったり、喜んだり、泣いたり、怒ったりしながら過ごす日々は、きっと一生の宝物になる。私たちには、共に生きる「仲間」がいるのだと実感させられる。

たった18日間のキャンプだけれど、このキャンプに参加することを決めたときから、また新しい人生の一步が始まるはず。それはきっとあなたにとってかけがえのない時間となるでしょう。私や過去のキャンパーがそうだったように。

森 小百合

(第17回引率スタッフ・同盟スタッフ)

2012年度 第18回 学生 YMCA インドスタディキャンプ

<募集要項>

2013年2月20日(水) ~ 3月9日(土)



(セントボニファスアンバハムの子どもたちと)

主催：日本 YMCA 同盟全国協力
学生 YMCA

協力：学校法人アジア学院
ワイズメンズクラブ国際協会
東西日本区